

岡山県立

博物館だより

76号



＜特別展より＞正阿弥勝義作 群鶏図香炉（清水三年坂美術館蔵）

- 特別展を終えて …… ②③
- 企画展を終えて …… ④
- 交流展を終えて …… ⑤
- 教育普及事業 …… ⑥⑦
- 博物館 NEWS …… ⑧
- INFORMATION …… ⑧



＜吉備の国ジュニア歴史スクール＞
「備前刀コース」備前長船刀剣博物館にて



＜特別展より＞重要文化財「法然上人行状絵巻」巻二 第三段（當麻寺奥院蔵）

「幕末・明治の超絶技巧 世界を驚嘆させた金属工芸 —清水三年坂美術館コレクションを中心に—

近年、幕末から明治時代の工芸、とりわけ金工について関心が高まっており、超絶技巧ともいわれる細密な金工技術が注目を集めています。こうした流れを受け、岡山県立博物館では平成23年度特別展として「幕末・明治の超絶技巧 世界を驚嘆させた金属工芸 —清水三年坂美術館コレクションを中心に—」を開催しました。



広報用チラシ

本展では、幕末・明治工芸の一大コレクションで知られる京都の清水三年坂美術館の所蔵品を中心に、幕末・明治に活躍した代表的な金工作家の優品185件を一堂に展示しました。その中でも、ひときわ人目を引いていたのが、岡山出身の天才金工作家正阿弥勝義しょうあみかつよしの作品です。

勝義については、これまでの帝室技芸員を頂点とする近代美術研究の中では地方の名工という位置付けで、むしろ海外の収集家に高く評価されてきました。しかし、近年の幕末・明治工芸人気や本展を通じて、より多くの人々にその存在が知られるにつれ、卓越した技と個性的な作風を



展示風景

会期：平成23年6月3日（金）～7月18日（月）

併せもつ希代の金工作家として再評価が進んでいます。

展示室には、正阿弥勝義の代表作をはじめ、明治金工の双璧かのうなつお加納夏雄・海野勝珉うんのしょうみんの作品や、自在置物といわれる関節が自由に動かせる鉄製の置物、明治26（1893）年のシカゴ万国博覧会で大人気を博した鈴木長吉すずきちやうきち作「十二の鷹」などの名品が勢揃いしました。これほどの規模で幕末・明治の金工作品を紹介する展覧会は岡山県内では初めてのことで、まさに超絶技巧というべき驚きの金工作品の数々に、言葉にならない感嘆の声がたびたび聞かれました。



記念講演会



自由に動かせる金属のエビ模型をつくろう！



金工の実演解説

さらに会期中には、村田理如むらたまさゆき清水三年坂美術館館長による「正阿弥勝義に魅せられて」と題した記念講演会をはじめ、展示品をモデルにしたワークショップ「自由に動かせる金属のエビ模型をつくろう！」、金工の技を御披露いただいた「金工の実演解説」など、展覧会の内容に合わせた多彩な関連行事を実施し、大勢の参加者で賑わいました。

本展には9,576名もの来館者をお迎えすることができ、図録も会期中に完売するなど、大盛況となりました。今後もこのような魅力的な展覧会を企画・開催してまいります。

（学芸員 佐藤寛介）

「法然上人と岡山」



広報用チラシ

あたることから、これを記念した特別展を開催しました。

展示資料は、全部で136点。国宝13点、重要文化財39点が含まれます。なかでも知恩院（京都府）所蔵の国宝「法然上人絵伝」は、色彩の深みや描かれた線の細やかさなど、まさに国宝と呼ぶにふさわしい逸品です。本展では、この絵伝7巻と當麻寺奥院（奈良県）所蔵の重要文化財「法然上人行状絵巻」10巻をもとに法然の生涯とその教えを振り返りました。

また、県内外から多くの浄土教美術の優品を集めました。そのうち来迎図は「法然上人絵伝」にも描かれる題材で、描かれ方に特徴のある来迎図を集め、時代とともに変化する様子を紹介しました。

本展が初公開となる資料もありました。例えば新知恩院（滋賀県）の「法然上人立像（鏡御影）」は、法然の彫刻としては大変珍しい立像です。また、知恩寺（京都府）の「阿弥陀如来立像」は、浄土宗による大遠忌事業の調査の中で発見された像で、その後の研



特別解説

法然（1133～1212）は、美作国稲岡庄に生まれ、天変地異や源平の争いで混乱が続いた時代に、専修念仏を唱えて人々の救いとなるとともに、その後の日本仏教界に大きな影響を与えました。本館では、平成23年が、法然の800回忌に

会期：平成23年10月7日（金）～11月13日（日）

究から快慶の初期の作品である可能性が高いことが分かっています。今回特別解説をお願いした土井通弘就実大学教授がその発見者であり、特別解説で90名の聴衆が臨場感あふれるお話を聞き入りました。

県内にある法然ゆかりの資料、浄土教美術関連の資料を収集することができたことも成果の一つです。久米郡美咲町の摩賀多神社の岡山県指定重要文化財「文殊大明神坐像」は高さ40cmほどの坐像ですが、像底には応安3



記念講演会

漆（間）氏の室町時代の活躍を示す興味深い資料でした。

また、会期中には関連行事として2回の記念講演会を実施しました。

中井真孝元仏教大学学長には「法然上人の生涯と思想」というテーマで、法然の生涯を詳しく振り返りながらお話いただきました。当日は



記念講演会

250名が集まり、会場からあふれても熱心に聞かれていました。若杉準治京都国立博物館名誉館員には「法然上人絵伝と浄土宗の美術」というテーマでお話いただきました。スクリーンに法然を題材にした様々な絵巻物の場面を映しながらの解説に170名の方が興味深くお話を聞かれていました。

期間中は8,098名の方に御来館いただき、岡山県の先人法然の顕彰につながったのではないかと考えています。

（主幹 竹原伸之）

「岡山の年中行事 ー夏ー」

会期：平成 23 年 7 月 23 日（土）～8 月 29 日（月）



広報用チラシ

社会の急激な変化の中で変容を余儀なくされたり、伝承が困難になったりしている年中行事。本展は、平成 18 年 1～2 月に開催した企画展「岡山の年中行事 ー正月・豆まき・おひなさまー」の続編として郷土岡山の夏を中心とした伝統的行事を紹介しました。

展示室では、本館友の会ボランティア製作の茅の輪が^{たんご}出迎え、端午の節供から^{はっさく}八朔までの行事を国指定重要無形文化財 2 件、県指定重要無形民俗文化財 6 件を含む 65 件の資料で紹介しました。県内各地の御田植祭や盆踊り、また奇祭とされる「護法祭」などから改めて本



展示風景



ししこま作り

県の豊かな風土と古くからの生活や信仰の形を知っていただくことができましたのではないかと思います。現在、祀られることのほとんどなくなった形式の水棚（盆棚）を調査し、地元の方の御協力により復元し展示することができたことも展覧会の一つの成果となりました。

関連行事は、国指定重要無形民俗文化財「大宮踊」公演とその際、燈籠に飾る切り紙「シリゲ」の実演と製作体験、さらに瀬戸内市指定重要無形民俗文化財「ししこま」作り体験を行いました。期間中 3,168 名の方に御来館いただきました。（学芸員 信江啓子）

「新たな国民のたからー文化庁購入文化財展ー」

会期：平成 23 年 9 月 2 日（金）～10 月 2 日（日）

文化庁では、国宝・重要文化財の指定をはじめ、貴重な文化財の流出を防ぐことなどを目的として、国宝・重要文化財及びこれに準ずる文化財の購入を継続的に行っています。平成 21 年度からは、より多くの国民に文化財に触れる機会を提供するため、全国の公開承認施設で展示することとなり、平成 23 年度は、本館で開催されることとなりました。



広報用チラシ

本展では、「仏（ほとけ）」「雅（みやび）」「巧（たくみ）」「土（つち）」のテーマを掲げ、これまでに購入し所蔵する文化財の中から、近年に国が

購入した文化財の優品を中心に紹介しました。

普段はなかなか触れることのできない貴重な文化財を間近に見ることのできる機会であり、併せて県内に伝わる文化財についても、理解を深める機会となりました。総件数が 33 件と、規模の大きな展覧会ではありませんでした。岡山では公開することが少ない貴重な資料に来館者は見入っていました。



仁清若松図茶壺（文化庁蔵）

また、先の東日本大震災における被災文化財への文化庁の「文化財レスキュー事業」も紹介し、協力を呼びかけました。期間中 3,592 名の方に御来館いただきました。

（学芸員 鈴木力郎）



広報用チラシ

「出雲と吉備 一玉・銀・神楽一」

会期：平成 24 年 1 月 13 日（金）～2 月 19 日（日）

島根県立古代出雲歴史博物館との交流事業も 3 年目、最終年度を迎えたことから、出雲と吉備の交流をテーマにした展覧会を開催しました。

「第 1 章 交流のはじまり」では、石器や土器等の考古資料により、旧石器時代からはじまる両地域の交流の足跡をたどり、そして、「第 2 章 出雲の玉作りと吉備」「第 3 章 石見銀山と岡山」「第 4 章 島根と岡山の神楽」では、岡山出土の出雲産玉類や石見銀山の発展に関わった岡山ゆかりの人物、島根の神楽と備中神楽など交流を物語る資料を紹介



展示風景



公演 佐陀神能

した。会期中、5,397 名の方々に御来館いただきました。また、足立克己古代出雲歴史博物館学芸部長による記念講演会には 160 名、ユネスコ無形文化遺産に登録されたばかりの佐陀神能の公演には 350 名の方々に御観覧いただきました。

さらに本館友の会ボランティアによる展示ガイドを 4 日間、うち 2 日間は島根県からもガイドにお越しいただき、来館者の好評を得ました。両県の歴史と文化に関わる理解はもちろん、学芸員やボランティアなど「人」の交流も行われ、有意義な 3 年間でした。

しました。

（副参事 正木茂樹）



ボランティアガイド

「特集展 備前焼—土と炎の芸術—」

会期：平成 23 年 12 月 28 日（水）～平成 24 年 2 月 26 日（日）



広報用チラシ

平成 23 年度は、島根県立古代出雲歴史博物館においても、文化交流事業として特集展「備前焼—土と炎の芸術—」が開催され、岡山県立博物館の所蔵資料を中心に約 100 件の資料が展示されました。その内容は、備前焼の平安末期に遡る源流の姿、中世の流通の歴史、

安土桃山時代に茶陶として華開いた隆盛期の姿、そして江戸期からの細工物、置物への流れを展観し、人間国宝による技と未来への創造という展示構成で紹介されていました。

年末から始まった会期中には、重要無形文化財保持者（人間国宝）の伊勢崎淳氏による特別講演

会、島根・岡山両県の学芸員による展示解説、土ひねりによる備前焼体験、干支グッズづくり、その他関連講座なども行われ、島根の方々に備前焼の魅力を楽しんでいただきました。

また、交流事業の一環として岡山のボランティアによる島根会場での展示ガイドを実施しました。ほぼ同じ時期に開催された両県の展覧会でのガイドを目標に、年度当初から勉強会を重ねてきた成果を十分に発揮し、来館者の理解を深め、好評を得ていました。

島根県で備前焼を大きく取り上げる展覧会は初めてでしたが、岡山の「出雲と吉備」展と合わせて、両県の伝統文化の交流が実現した事業となり、大きな成果となりました。



展示風景

（学芸員 鈴木力郎）

教育普及事業の概要

平成23年度も様々な形で、教育普及事業を推進しました。

吉備の国ジュニア歴史スクール

平成21年度からの事業、「吉備の国ジュニア歴史スクール」も3年目を迎えました。今年度も3コースで実施し、「備前刀コース」に井原市立荏原小学校・県主小学校、「豊臣秀吉と岡山コース」に和気町立本荘小学校・日笠小学校・佐伯小学校が、そして「法然上人と岡山コース」には勝央町立勝央北小学校の児童が参加しました。



「備前刀コース」
備前長船刀剣博物館での体験



「豊臣秀吉と岡山コース」
備中高松城跡にて

第1日目は、各コースともそれぞれ関連する県内の文化財をバスで廻りました。第2日目は、当館で実物資料に触れながら館内授業と展示の見学を行いました。



「法然上人と岡山コース」
誕生寺にて

第3日目は、各学校で2日間の成果をもとに学習のまとめを行いました。新聞作りや発表会等、工夫を凝らしたものでした。今年度の活動の様子は報告集にまとめ、県内のすべての小学校へ配布しました。



「備前刀コース」
プロジェクターを使った
成果発表



「豊臣秀吉と岡山コース」 演劇による発表



報告集

館内授業・出前授業・歴史探検ツアー

館内授業は、本館で実物資料に触れたり、展示を見学したり、テーマに基づいた授業を行ったりします。地下の収蔵施設や燻蒸の設備など、初めて目にするものが多いバックヤード見学も好評です。出前授業は、学芸員が県内の小・中・高等学校に実物資料を持参して授業を行います。また、歴史探検ツアーは、学芸員がバスに添乗して県内の史跡を見学した後、本館を見学します。



体験！昔の暮らし

館内授業は47校、出前授業は25校、歴史探検ツアーは3校に御利用いただきました。

館内授業は47校、出前授業は25校、歴史探検ツアーは3校に御利用いただきました。



古代吉備の世界



史跡見学

中学生職場体験・博物館実習

今年度も岡山市内の中学校2年生（3校9名）が博物館業務を体験しました。職員からの説明や実物の資料を扱う経験をし、学芸員の仕事やその厳しさを感じたようです。



掛け軸の取り扱い



刀剣の取り扱い

8月には学芸員をめざす県内外の大学生13名が博物館実習を行いました。普段の博物館業務だけでなく、企画展の関連行事等で博物館活動を支援する実習にも取り組みました。実際に来館者との対応など、工夫しながら取り組んでいました。



シリゲ作り体験支援



受付業務の実習

学芸員による展示解説

毎月第2・4土曜日の午後2時から、学芸員が展示内容の解説を行っています。展示会の内容を詳しく、展示資料を分かりやすく説明しています。今年度も毎回多くのお客様にお越しいただきました。



展示解説

博物館講座

県民一般を対象に、「岡山の歴史と文化」をテーマに行う講座で、スタンダードコースとスペシャルコースを開講しています。

スタンダードコースは、当館の学芸員が平素の研究成果を、博物館資料を用いながら行うもので、8講座を開講しています。6月の火曜日と木曜日に実施し、各曜日とも約70名が受講しました。



スタンダードコース

スペシャルコースは、各分野から研究の第一人者を講師として最新の



スペシャルコース

研究の成果等を学ぶ講座で、7～10月の各月1回、全4講座を開講し、毎回約120名が受講しました。

「歴史体験 よろいと小袖を着てみよう!」

5月5日には「歴史体験 よろいと小袖を着てみよう!」を実施しました。よろいと小袖ともに10組ずつの親子が参加し、実際に着用して本物の持つ質感や迫力などを感じてもらいました。楽しい一日になりました。



いきいき講座

博福（博物館と高齢者福祉施設）連携事業として平成22年度より「いきいき講座」を実施しています。



いきいき出前講座

民具を使って懐かしい体験をしたり、思い出を語り合ったりする「いきいき館内講座」「いきいき出前講座」「いきいき展示解説」を開設し、博物館と福祉の現場が連携して新たな博物館のあり方に取り組んでいます。



いきいき館内講座

昨年度の高校生ボランティアに加えて、今年度は大学生ボランティアも講座で活動しました。



報告書

(学芸員 鈴木力郎)

岡山県立博物館開館40周年記念企画

岡山県立博物館は、県政100周年記念事業として昭和46(1971)年に開館しました。平成23年度は開館40周年にあたることから、これを記念して特別展「法然上人と岡山」を開催するとともに、特別展会期中を除く4月から12月にかけて岡山県立博物館40周年記念企画「ありがとう40周年!—岡山県立博物館展覧会のあゆみ」と題して開館以来の展覧会ポスターや図録の展示を行い、40年の歴史を振り返りました。



開館40周年記念展示

新収蔵資料 上田春山作「備中神楽」面

岡山市内の神楽面蒐集家の方から、神楽面作家として岡山県を代表する上田春山(1915～2001)作の「備中神楽」面42作品を寄贈していただきました。このうち手力男命・大国主命・須佐之男命等10面については、平成23年度岡山・島根文化交流事業「出雲と吉備—玉・銀・神楽—」の会期中1月31日から2月19日まで2階ホールで御紹介しました。



上田春山作「備中神楽」面

(副館長 島崎 東)

INFORMATION

●●●●● 平成24年度の展覧会予定 ●●●●●

特別展 「昭和モノ語り —人々のくらしと岡山—」

会期 平成24年8月3日(金)～9月17日(月・祝)

戦前・戦後で変化した私たちの生活を、モノで振り返るとともに岡山のできごとを紹介します。

特別展 「邪馬台国の時代—吉野ヶ里から唐古・鍵、纏向まで—」

会期 平成24年10月19日(金)～11月25日(日)

古代吉備の弥生時代、とくに邪馬台国の時代に注目します。九州の吉野ヶ里遺跡や、大和の唐古・鍵、纏向遺跡など邪馬台国に関わる遺跡や資料を紹介するとともに、この時代における吉備の人々の生活や文化を取り上げ、邪馬台国とのかかわりなどを紹介します。

企画展 「戦国サムライアート変わり兜」

会期 平成24年4月26日(木)～6月3日(日)

交流展 「坂本龍馬と幕末の土佐」

会期 平成25年1月5日(土)～2月11日(月・祝)



オート三輪「みずしま」号 TM3A
昭和22年製
(三菱自動車工業株式会社水島製作所蔵)



【国宝】平原王墓出土
超大型 内行花文鏡(11号鏡)
(文化庁蔵・糸島市立伊都国歴史博物館保管)

岡山県立博物館だより 第76号

発行日/平成24年3月31日

発行者/岡山県立博物館 館長 田村 啓介

〒703-8257 岡山市北区後楽園1-5

TEL: 086-272-1149 FAX: 086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>



この用紙は古紙・再生紙を含んでいます。